

99

寛永諸家譜

藤原氏丁三冊之内三  
道隆流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 99)
函號	特 76 1





大森

三雲

寛永諸家系圖傳

藤原氏

丁三 小家

通隆流

大森

定頼（一） 佐久（二） 号（三）

佐久（四） 平氏（五） 号（六）

大織冠十二代

道隆

従一位 内大臣 攝政 園白 中園白と号（七）

浅草文庫

伊周

正二位 内大臣

母の後二位高階業忠の女

花山院の御宇に攝政とありて

犯せしむるのしほ 教用は達する

一一条院の御宇に長徳二年

名を惟親とありて大宰権帥

たはなせし

忠親

次郎大史

同四年初代とありて御京にありて  
てはら 朝集のとき 大臣の下に納む  
のよりつらう

寛弘五年大臣となりて封戸

一千戸とありて儀同之目と稱す

同七年正月二十八日薨す

母ハ上東つ院の女侍侍得ス捕糸白  
大中后捕親ガ女いしや  
父内大臣左近さじんト号シテ  
これト侍得の玉たまト号シテ  
又上之と号シ又帥しゅの女にと号シ

惟康

侍得新次高之丞 後河守  
母ハ三位実範じつはんガ女むすめ

和伯父侍得じつとく守まもこれト養育やしよくト号シ  
ゆゆト号シ侍得ト号シ中比なかつひ之の別わかト号シ  
乃の庄しやうト領りやうト号シ  
それそれら甲斐かい後河ごが而を四司しよしト号シ  
世よト号シ  
法名ほふな定義じやうぎ家け志し 院いんト天津てんじんト号シ  
後河ごが兼かね保たかの庄しやうト号シ  
築大森たけおもりの天神てんじんト号シ

親家

伊弉佐治守

くづりも定康と号す

母ハ令昆孫中弼之幸唐之女

親家

大森一信佐治守

母ハ源為義の女

親忠

次郎守

信忠佐守

源頼朝ハ父子ノ忠義ト感シカハ

親戚トシテヨリ諱字トシテ

頼忠と号をかくるが、少一子孫  
みやく頼の字と号をかく名と

行頼

六郎

兵衛尉

はる行河孫

経頼

次郎

大進尉

はる志持

乃号

傑山

惟頼

与一 佐濃守

法名清持

通号天寿

頼顕

与一 佐濃守

同系の法可系中へ、とく頼顕と通

念の傍所とも、又相州小田原の城

居し、くぬの方代警衛とある

法名 蓮 法 道号 大 念

藤 頼

与一 式部 人 権 小 田 原 乃 城

法名 信 格 道号 右 標

頼 明

与一 佐 治 小 田 原 乃 城

関 东 御 所 乃 与 一 桐 乃 紋 与 一 孫 乃 家

家 乃 紋 与 一 法名 信 諾 道号 光 若

頼 春

与一 佐 治 小 田 原 乃 城

寛 永 二 十 三 年 関 东 源 氏 乃 家 臣 上 杉 右 衛 門 佐 氏 憲 乃 謀 反 乃 事



持氏後列し退かせし持氏の親表  
父子忠義とぬえんで持氏と鎌倉  
ありし心

法名光公 玉山

證實

江平

大僧都

皇別當根山別當

氏頼

与一伝信守 左馬依後一寄持府と  
号し

氏頼父祖が忠切ありしよりて加冠せ  
しとて持氏より諱の字と給ひし  
氏頼と号し小田原の城より侍てお預  
けしありし頃初と此時同来スよみよき  
徳家おとよよとあしき氏頼とて  
義兵とて一武切有よりて此  
名とありしとてきよなるよ 齋と持氏の

子孫源の成氏をいひて政氏と云  
く家つ年無のこさをまらゆ  
漸父祖の職と継ぎしをいひて  
氏頼四好といはれど其懐を家  
似ふるといふと猶謀逆の臣あり  
て成氏政氏よりあひしあつる  
不ふれざるやわらうといひく  
あつていひ兵とせし東家と一統  
して政氏といはるる事と云

あつたあきと内りまじい事と云  
やほわし素懐といはる  
明徳二年八月二十一日小回原  
といひく死と 法名明昇 道号  
日昇

實雄

法印 僧正 善根山別當

實頼

大膳入道 後波守 筑前守と改む

おらよ不二菴と号す

小田原の城に任じ又氏頼より先

ぶりに死し泰頼幼少なるよりつて

領地と友頼よりつてくは名の厚

道号 淳翁

藤頼

任波守 後筑前守と号す

小田原の城に任じ

明應四年巨洲の里小條早雲

小田原の城にやう友頼が一族同

回美田の城よりつてつて病に

ましきでし三年を歴ぬらむ

と云く小田原と美田やういふ

兵とつてしつてくいとみくし

やうとつてしつてくいとみくし

女子

一族小條グハツノハ  
法名道存 道号心知

之浦信真守平義同入道乃寸母  
法名明秀 道号松岩

泰親

亮十郎 相持國小田原ノ  
友親没洛ノとき少年ニ

正也ノ真回トシテ甲州ノ  
うき舟ノ長子トシテ  
又回  
又一家ノ冠トシテ  
と寸志ノれども  
死  
乃号中存

泰次

菊池甚七郎 下総守 中四甲斐  
又泰次死して其ら小條が家臣  
山申仙波の泰次が親戚をもち  
しりて云ふよ泰次といふことあり  
相列しりし小條の泰次が一族の御  
よりおのりゆへに仙波の姓をとり  
して菊池と稱しりよとて仙波

うらごを同ろしてらまると接  
育と

寺長十八年八十二歳にして死  
法名生西 通号社琴

泰定

菊池甚七郎 下総守 中四甲斐  
寛永十五年八十二歳にして死  
法名念如 号慶泰

定頼

佐久弓久七郎 後六た出とあしむ

お洲小田原よししる

母左式部少輔源資重しむらの女むすめ

天正十一年紫田播磨家江川志保しほが

獄がくしと云く其臣秀吉やあひ

くくしむ村をうりし播磨家はろまの外甥ぐわいしやう

佐久弓佐前守平安政やすのりをいひし

大悟元孫おほご之義死よしのとそと関東くわんとう

下したは小條氏政せうじょうしとけ時氏政とき

外祖ぐわいそ父資重しむらの女むすめと云く播磨はろま之の

嫁よめと小條没落せうぼくの故ゆゑその孫まごと云て

勝之定頼かつのさだのりと養育やしよくをわづらひし

氏うぢと冒をかしあつた云く佐久弓さくまと稱なづを

号なづな長五ながごと同原陣どうげんの時勝とき之の也

共ともし陣中じんちゆうにいしる

同六年勝之定頼さだのりとて

名瀬侯殿 福一 年一 心可

定規十五歳

同十九年の冬大坂御陣の時

牧中内通頭信成が紐よりの名鷹

一りさうぶひきくまう御本陣

長迫の書とつとじ

望月大坂御陣一松平越中

定綱が紐よ列して侍一天皇

名瀬一りさうぶひきくまう御本陣

瀬直

先づらすみく城中一入野二  
人と討捕と一も和方城  
入んさうそれ首とさうさゆま  
とよぶれきらまらよ子貫橋の  
評下りしるる

佐久右久七郎 武州に居る生

元和七年秋五十五歳の時

名流後教と祥しやう——

寛永二年かんえいにねん——御小姓ごせう部ぶ——

番ばんと所しよと心しん

於道おのちみち

佐久さく与よら左衛門尉ざゑもんゑい 牛うし玉たま同どうお

大森家紋おほもりかゑもん 二ふた枚まい左ひだり右みぎ巳み

佐久さく与よ家紋かゑもん 丸まる乃の内うち三さん川がわ



大儀冠十二代

通隆

三雲

家傳了りいそくえい大河原也  
稱と新右衛門實乃りいそく  
あゝぬめく三雲也号と

正二位

内大臣

伊周

正一位

内大臣

伊行

左衛門督

恒行

家行

武藏守

河内守

家弘

児玉庄守

弘方

庄五郎

實高

左兵衛尉

正治二年正月十九日大藏卿

建保四年十二月十日大藏卿

仁比

武茂公たけしげ 小峯こね 玉乃たまの 庄しやう 上野かみの 守まも 高たか 山やま の 庄しやう  
同どう 小こ 吉きち 書しよ 郡ぐん の 内うち 中なかつ 山やま 村むら 越こ 後ご 小こ 夜よ 保ぼ  
孫まご 重しげ 根ね 保ぼ 大おほ 積つみ 保ぼ 加か 有あ 小こ 治ぢ 田ぢ 村むら 守まも  
仁に 治ぢ 二に 年ねん 正せい 月げつ 了りやう 病びやう 死し と

實家じつけ

實行じつぎやう

太郎たろう 左ひだり 衛ゑ

左ひだり 衛ゑ 守まも 監かん

時國ときくに

新あらた 左ひだり 衛ゑ

法はふ 名な 本もと 守まも 監かん

實信じつしん

左ひだり 衛ゑ 七しち 郎らう

法はふ 名な 守まも 監かん 連れん

行義ぎやうぎ

次つぎ 郎らう 左ひだり 衛ゑ

法はふ 名な 守まも 監かん 承じやう

家實いへざつ

新集

法名道實ぎやうじつ

家實十八歳より一國東より城後の  
日作らばおもしろくことなり玉織り  
一撥とおくも家實と他の守護  
家一々三々く太切と抽

實綱じつづな

瓦張守ゐざうしゅ

景實けいざつ

石田六郎

法名宗實しゆじつ

躬實こうざつ

三郎集

孝實かうざつ

法名竹治長實たけぢやうぢやうじつ



天文年中儒天心明初一入少  
定持縫目うき得く皮の鞆と求んが  
く免奴僕ししくられしるさうり  
い天心敏初のととき大明寺の吏部尚  
書同石塘とつしもれお鞆新と始  
且又書と添其畧しししと云  
た令吾定持云々登聲溢一時文章  
武畧愛出凡庸副使天心師誥老  
揚之不絶誦之貴辞由以知云之賢

益教書為二十四郡出郡之人  
其書今ししれあわ  
元龜元年織田信長江州を殺向の  
こき定持信長ししと野洲初  
しししし終し我死と業五十五

賢侍

新之郎 ねらう新左衛門とわし  
永禄三年依く本義禎浅井俊成

守と合戦のとき、噴物兼禰子、扇一  
江州小郡、討死に果す

成将

冬、大坂、新庄、  
之、尾、江州、浪人

天正十二年

東照大権現、備后、信雄と、臣

秀吉と、尾州小牧、討陣あり

代、あ、い、多、く、海、の、勇、士

百、余、人、と、率、く、瀬、川、之、部、を、備、と

楯、籠、こ、り、と、し、く、宿、田、の、城、

大、権、現、御、書、と、し、信、雄、と、又、書

と、其、初、め

今度お抽忠儀并江州不知分  
如前可完行条一盡然切  
事当一々之

卯月十三日依雄判

三雲新庄其射取

其方男上之儀江州不知分  
中村人条殊之油所儀事之洞

略忠節所寄作者也仍如件

天正十二年

卯月廿六日家康判

三雲新庄其射取

之度忠儀并江州不知分  
野洲河内并上道同并下甲  
有河小川南河内法入地宛行上



令可<sup>し</sup>知<sup>ら</sup>る<sup>べ</sup>也

天正十二

六月方 佐藤朱尔

之雲新屋門尉殿

納馬竹の子<sup>なまたけのこ</sup>と文老<sup>ぶんらう</sup>解<sup>と</sup>解<sup>り</sup>申<sup>す</sup>候<sup>に</sup>  
寔<sup>ま</sup>無<sup>き</sup>候<sup>に</sup>と被<sup>ま</sup>旨<sup>し</sup>候<sup>に</sup>系<sup>けい</sup>御<sup>ご</sup>為<sup>な</sup>り  
酒井左兵衛尉<sup>さへいゑい</sup>下<sup>か</sup>へ申<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>候<sup>に</sup>候<sup>に</sup>

十二月二日家康御到

之雲新屋門尉殿

大<sup>お</sup>指<sup>さ</sup>次<sup>じ</sup>并<sup>な</sup>し<sup>し</sup>佐<sup>さ</sup>藤<sup>てい</sup>不<sup>ふ</sup>領<sup>りやう</sup>と<sup>と</sup>申<sup>ま</sup>す<sup>に</sup>

の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>孫<sup>まご</sup>あり<sup>あり</sup>や<sup>や</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>申<sup>ま</sup>す<sup>に</sup>此<sup>こ</sup>陣<sup>じん</sup>と<sup>と</sup>申<sup>ま</sup>す<sup>に</sup>

和<sup>わ</sup>睦<sup>ぼく</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>其<sup>その</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>申<sup>ま</sup>す<sup>に</sup>

小<sup>こ</sup>牧<sup>まき</sup>退<sup>たい</sup>陣<sup>じん</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>ら<sup>ら</sup>南<sup>なん</sup>生<sup>せい</sup>飛<sup>と</sup>騾<sup>じゆ</sup>守<sup>しゆ</sup>氏<sup>し</sup>郷<sup>かう</sup>が<sup>が</sup>

こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>わ<sup>わ</sup>成<sup>せい</sup>持<sup>ぢ</sup>が<sup>が</sup>書<sup>か</sup>を<sup>を</sup>氏<sup>し</sup>郷<sup>かう</sup>が<sup>が</sup>

伯母とびよりよとりてまめ

享長八年十二月六十四歳とりて

病死とは名道珍なみちち

成長ちやうせい

新三郎しんざうらう ねらとり新屋しんやとりて

文祿二年ぶんろくによめとりて

入於現いりしつるゆきくまりる

享長元年きやうちやう食禄じきろくとりぬりる

同二年どうに食禄じきろくとりぬりるふまる上の徳とく四し

望もち陀た那なららししとりぬりる東也や

ししよよ

同五年どうご買原陣かいはらじんしし付け奉ほうし

月九日つきくにち江州えしゅう甲賀かへ初はつららししとりぬりる

来き心こころとくくくへへぬる

又また坂さか西にし度どの西陣じんはは付け奉ほうをつて

入い於り現げん薨こう御ご北きたのら

名な徳とく院いん敏みんししつつるゆきくまりる

寛永元年 仰しけきぬりて

將軍家より修之るまじり

同十二年十月六日感ふて病死と

法名守慶

成時

新二郎

元和五年

名酒院殿より祥福より

同九年

將軍家より了ふり

寛永元年 西の橋津より

て大の番とつとむ

同十二年 仰しけきぬりて

二条御所の番とつとむ

同月十月廿日感ふて病死と

法名宗春

定氏

内記

寛永三年

將軍家了りけり

月十八日二月十日使中守資宗

仰せつけし由りて法家の系圖と

えりし同十一月朔日作

しりて西瓦加藤の對正信圖也之也

定信

内藏物

正成身合伊左衛門尉具枚ホと彼席  
とひりし年の役とけり

家紋

軍配團扇内一文字





